

23 土壌水分がニラとろけ症の発生に及ぼす影響

福島県農業試験場野菜部・平成12年度農業試験場試験成績概要

1 部門名 野菜－ニラ－流通－病害虫防除 分類コード 03－39－33230000

2 担当者 藤田祐子

3 要旨

ニラ腐敗病は、*Pseudomonas marginalis* の感染による細菌病で、ニラ生育中は黄褐色条斑を伴う葉のねじれや屈曲、収穫後はニラの切り口や結束部分の腐敗を起こす。ここでは、栽培中の土壌水分がニラとろけ症の発生におよぼす影響について調査した結果、以下の知見を得た。

(1) ニラを異なる土壌水分条件で栽培した結果、ニラ植物体の水分含有率に大きな差は認められなかった。

(2) 多湿条件で生育したニラは、乾燥条件で生育したニラよりも葉鞘が太く、100gあたりの本数が少なかった。

(3) 病原細菌を接種して比較したところ、多湿条件で生育したニラには、とろけ症が発生したが、乾燥条件で生育したニラでは、とろけ症の発生が見られなかった。

(4) 病原細菌を接種し、生育中の病徴である黄褐色条斑の発生を観察したところ、多湿条件で生育したニラは、乾燥条件で生育したニラより、黄褐色条斑葉の発生が多かった。

(5) 乾燥条件で育てたニラは、とろけ症の発生抑制には有効であるが、葉鞘が細くなるため、品質が劣る。葉鞘が太く品質の良いニラを生産するには、ある程度の多湿条件下で栽培する必要があるが、そのようなニラにはとろけ症が発生しやすいことから、発生防止のための流通対策を十分にとることが重要である。